



CIOを対象としたテクノロジーに関する調査：テクノロジーの優先事項2024年

主流となるテクノロジー

IT予算が増加し、AIへの関心と投資が他の分野を圧倒する中、
ITリーダーはこれまで同様に慎重ながらも楽観的な姿勢を示しています

CIO

大

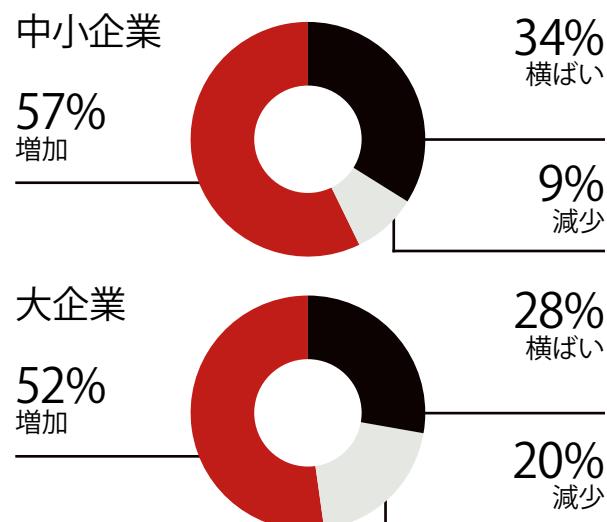
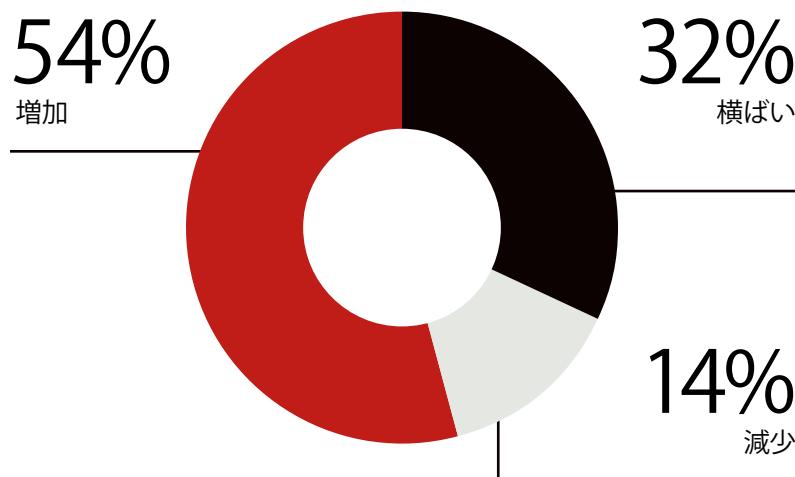
きな影響を持つトレンドが出現し、毎日のように見出しを飾っています。ティラー・Swiftではありません。人工知能です。昨年から始まったAIへの関心の高まりは、AIがビジネスプロセスや意思決定から、ソフトウェア開発、文書コンテンツの作成に至るまで、あらゆるもの自動化する可能性を秘めていることを企業が確信するにつれ、熱狂的なものになっています。

大きな影響を持つトレンドが出現し、毎日のように見出しを飾っています。ティラー・Swiftではありません。人工知能です。昨年から始まったAIへの関心の高まりは、AIがビジネスプロセスや意思決定から、ソフトウェア開発、文書コンテンツの作成に至るまで、あらゆるもの自動化する可能性を秘めていることを企業が確信するにつれ、熱狂的なものになっています。

今年、大部分の企業がAIテクノロジーへの投資を通して業務の自動化を大きく進め、効率を高めようとしています。

Foundryの『テクノロジーの優先事項2024年』調査では、調査対象となったIT意思決定者のおよそ89%が、AIを活用したテクノロジーを調査中か、試験的に導入中か、組織内で現在使用中であると回

予算の内訳



答し、2023年の72%から上昇しています。同報告書によると、人工知能と機械学習が今後3～5年の間に自社のビジネス運営を大きく変えると予想するITリーダーは約64%に上り、昨年のわずか39%から上昇しています。

2024年にIT意思決定者は複数のテクノロジーに賭けていて、AIはそのうちの1つに過ぎません。IT意思決定者はそれらのテクノロジーに予算を割り当て、取り組みを強化しています。景気への懸念が持続する中、調査対象となったITリーダーの半数以上(54%)が、今後12か月間にIT予算を増やすことを計画していると回答し、2023年(51%)からわずかに増加しています。中小企業に限ると、回答者の57%がIT予算の増加を計画し、減少を見込んでいる人はわずか9%でした。全体では、回答者のうちIT予算の増加を計画している人は、平均で20%の増加を見込んでいます。回答者の約3分の1(32%)は今年、予算額に変更はないと見込んでいます。

Foundryは、世界各地の271名のCIOと幹部IT意思決定者を対象に、ITリーダーが今後12か月間にどのテクノロジ一分野に注力するかを調査しました。その結果、これらのカテゴリーにおける支出の方向性が浮き彫りになりました。

調査中または試験導入中のテクノロジートップ5

1. AIを活用したテクノロジー

AIを活用したテクノロジーが現在の最大のプロジェクトであり他のテクノロジーを圧倒していると回答したITDMはほぼ3分の1(29%)に上り、ITDMの

70%

のITDMは、2024年にAIを活用したツールへの支出を増やします

70%はAIを活用したテクノロジーに特化したIT予算を増額すると回答しています。

AIは、ビジネスのほぼあらゆる領域で業務改善をもたらす可能性を秘めています。IT意思決定者は、AIには特にプロセスオートメーション(59%)、顧客体験(39%)、自然言語処理(27%)、リスク管理/不正検出(27%)に変革をもたらすメリットがあると予想しています。

AIテクノロジーはデータに基づいて新しいスキルや対応を「学習」するため、AIとデータ分析は密接に関連しています。AIとデータ分析への関心が、2024年にITリーダーの注目を集めている他のすべてのテクノロジーを圧倒しているのはそのためだと考えられます。

ITDMがAIの活用を計画している分野

- プロセスオートメーション(59%)
- 顧客体験(39%)
- 自然言語処理(27%)
- リスク管理/不正検出(27%)

2.データモデリングツール

ITDMがAI/MLの取り組みの支援に必要なデータモデリングツールにも同様の関心を示しており、ITDMの60%がこれらのツールを調査または試験導入しているのも不思議ではありません。結果として、ITDMの43%が、社内AI/MLプロジェクトの支援でデータモデリングツールへの支出割当額を増やす予定です。

3.SASEとセキュリティエッジ

SASEとセキュリティサービスエッジ (SSE) は、調査または試験導入されている割合が高いテクノロジーの第3位で、ITリーダーの47%がこのテクノロジーを積極的に調査または試験導入しています。SASEは今年高い関心を集めているもう一つのテクノロジー分野であるセキュリティテクノロジー (SD-WAN、SDプランチ、Firewall-as-a-Service、セキュアWebゲートウェイ、クラウドアクセスセキュリティブローカー、ゼロトラストネットワークアクセスなど) をネットワーキングと統合するものであるため、これは自然な流れです。

4.従業員エクスペリエンステクノロジー

企業は1年以上前から従業員にオフィスに戻るよう促しており、それと並行して、従業員の幸福感とエンゲージメントを維持することに熱心になっています。おそらくそのことが理由で、ITDMの45%が従業員エクスペリエンステクノロジーを調査または試験導入しています。これらのツールは、従業員の満足度、幸福度、パフォーマンスに貢献することを目指に、前向きで、生産性が高く、魅力的な職場環境の構築を目指しています。これには、ソーシャルコ

ラボレーションツールから学習・能力開発プラットフォーム、従業員の福利厚生アプリまで、あらゆるもののが含まれます。

5.サーバーレスコンピューティング

サーバーレスコンピューティングとは、固定量の帯域幅やサーバー数ではなく、ベンダーが必要に応じてバックエンドサービスを提供するアーキテクチャです。多くのデベロッパーにとって、サーバーレスアーキテクチャはより優れた拡張性、より高い柔軟性、リリースまでの時間の短縮を、すべて低成本で実現します。おそらくそのことが理由で、ITDMの44%がこのテクノロジーを積極的に調査および試験導入しています。ただし、サーバーレスコンピューティングには、テストやデバッグのためのサーバーレス環境のレプリケーションにおいて、セキュリティ上の懸念だけでなく、まだ多くの課題があります。

すでに使用中の最も注目を集めるテクノロジー

サイバー犯罪の発生率は上昇しています。リモート勤務の増加で接続デバイス数が増え、ベンダーとの

68%

の回答者が、
サイバーセキュリティ投資に
特化したIT予算を増やすと
回答しています。

- ITDMがSaaSアプリを導入する分野：
1. プロジェクト管理
 2. メッセージングおよび
コラボレーションシステム
 3. 人事管理

サードパーティ関係数の増加も相まって、アタックサーフェスが拡大しています。このような状況とサイバーセキュリティ熟練者が不足している現状を考え合わせると、使用中のテクノロジーランキングでサイバーセキュリティテクノロジーが昨年の第4位から今年は第1位に躍り出た理由が容易に理解できます。

ITリーダーの75%は、アクセス制御、エンドポイントでの検知と対応 (EDR)、脅威分析といったサイバーセキュリティテクノロジーをすでに使用していると回答しています。ITリーダーは、行動監視と分析 (35%)、ゼロトラスト (33%)、コンテナセキュリティ (28%)、クラウドデータ保護 (26%) などの新しいサイバーツールの調査にも取り組んでいます。大半の回答者 (68%) が、サイバーセキュリティ投資に特化した予算を今年増額すると回答しています。3分の2以上の企業 (68%) が、これらのサイバーセキュリティテクノロジーに特化したIT予算を増やしました。ITDMは、セキュリティベンダーと提携するパフォーマンス改善計画についても回答しています。

使用中のツールランキングでコラボレーションツールが第2位に入り、ITリーダーの73%はすでにこのテクノロジーを導入しています。エンタープライズアプリ (69%) と非SaaS型クラウドテクノロジー (67%) がこれに続きました。

立ち上げの失敗

かつてハイプサイクルを席巻したテクノロジーのいくつかは、ITリーダーの優先項目リストから消えてしまいました。たとえば、ブロックチェーンについては、ITリーダーの58%が関心を失いました。また、回答者のほぼ半数 (49%) がプライベート5Gネットワーク/固定無線資産に関心がないと回答し、回答者の48%は拡張現実/仮想現実テクノロジーに関心がないと回答しています。偶然にも、これらのテクノロジーは昨年の「関心がない」ランキングのトップ3を占めました。

SaaSが社内エンタープライズアプリをしのぐ

企業がエンタープライズアプリケーションの社内導入からSoftware-as-a-Serviceへと移行する流れが2024年も続いています。半数以上の企業が、プロジェクト管理ツール (53%) と人事管理 (52%) で社内導入ではなくSaaSアプリケーションを選択しています。ビジネスインテリジェンツツールと顧客関係管理で社内管理ソフトウェアではなくSaaSを選択する企業は半数に上ります。ITリーダーのおよそ40%はSaaS型決済処理アプリを導入し、38%は社内管理のアプリを使用しています。調査対象企業の39%がSaaS型ERPアプリケーションを導入

し、37%は社内ERPアプリケーションを選択しています。Slack、Teams、Nudge、Zoomなどのコラボレーションツールをサービス型で導入する企業は53%であり、社内導入を選択する企業はわずか13%です。

新しいベンダーとツールの導入と評価

新興テクノロジーベンダーを評価する際に、ITリーダーは主に従来の手法を用いています。新しいベンダーやツールを決定する前に、ITリーダーの3分の2が試験導入と製品デモを頼りにし、60%が社外イベントやカンファレンスに参加し、約半数(54%)が同格者に話を聞いています。

新しいテクノロジーの導入に向けた上位の課題

しかし、新しいテクノロジープロジェクトは多くの課題が伴うため、よく頓挫します。昨年と同様に、これらの課題には、特定の取り組みの予算不足(ITリーダーの43%が指摘)、組織における変化への抵抗、人員不足(各々34%)、導入のための適切なスキルセット不足(32%)が含まれます。

新しいテクノロジーの購入や導入を試みた際の最大の課題

- 北米：予算不足
- EMEA：人員不足
- APAC：予算不足

新しいベンダーをITリーダーが評価する方法

試験導入や製品デモを実施する

65%

イベントやカンファレンスに参加する

60%

同格者に話を聞く

54%

企業は適切なスキルセット不足への対処として、要求水準に追いつくための既存従業員のスキルアップとリスキリングに取り組んでいます。ITリーダーのおよそ70%は、人材のスキルアップ(従業員は既存の業務のために新しいスキルを身につける)の重要性が増していると回答し、63%は社員のリスキリング(従業員は別の業務のために新しいスキルを身に着ける)の重要性が増していると回答しています。ITリーダーのおよそ39%は、ITプロジェクトに必要なスキルセットを調達するために、フルタイム従業員の新規雇用が重要であると回答し、38%はアウトソーシングやマネージドサービスプロバイダーの利用が重要であると回答しています。

ITリーダーが今後12か月間に取り組むことを計画している改善分野もいくつかあります。サイバーセキュリティの強化(64%)、効率/コスト最適化(46%)、ITとビジネスの連携(42%)、イノベーションの加速(41%)が上位にランクインしています。

結論

IT意思決定者は今後12か月間にテクノロジー予算が着実に増加すると予想し、半数以上が予算の増加を、3分の1が横ばいを見込んでいます。

今年、ITDMIはAIとサイバーセキュリティへの投資を増やしており、今後数年間でビジネスとビジネス運営方法を変革するために、これらの技術カテゴリー内の特定のツールを積極的に調査し活用しています。

AIを活用したテクノロジーが初めてIT意思決定者の最重要プロジェクトとして位置付けられましたが、セキュリティは引き続き最優先項目の1つという位置付けを確保しています。

新しいテクノロジーの導入を巡る最大の課題は予想どおり予算不足と人員不足でした。

本調査について

2024年CIOを対象としたテクノロジーに関する調査では、2024年1月に271名のIT意思決定者が回答したFoundryオンラインアンケートのデータが分析されました。調査回答者は、全員がITまたはセキュリティ分野の主要な製品およびサービスの購入プロセスに関与しています。回答者は、主に北米（50パーセント）の企業を代表しており、一部ヨーロッパ（23パーセント）とアジア太平洋（23パーセント）の企業が含まれています。これらの企業は、テクノロジー、金融サービス、製造、医療、サービス産業など、さまざまな業界にわたっています。回答企業の平均従業員数は13,405名、平均売上高は53億6,000万ドルとなっています。

Foundryの最新情報

ニュースレター：メディアやマーケティングのトレンド、Foundry独自の調査結果、製品やイベントの情報をニュースレターで配信しています。ご登録は[FoundryCo.com/newsletter](https://www.foundryco.com/newsletter)で受け付けております。

ソーシャルサイトでのアナウンスは[LinkedIn](#)をご参照ください。

Website (グローバルサイト) : <https://www.foundryco.com>

Website (日本サイト) : <https://www.foundryco.com/jp>

Foundry (ファウンドリー) のご案内

弊社Foundryのビジョンは、テクノロジーを正しく活用することで世界をより良い場所にすることです。なぜなら、テクノロジーが適切に使われることは、世の中の善のために良い力となると信じているからです。

Foundryは、信頼されるVoiceとして、知識やエンゲージメント、そしてテクノロジーやセキュリティに関する意思決定をする人たちのコミュニティとの関係を深める、品質の高いコンテンツを提供しています。こうしたコンテンツを配信する弊社メディアブランドであるCIO®, Computerworld®, CSO®, InfoWorld®, Macworld®, NetworkWorld®, PCWorld® そしてTech Hiveは、最も影響力のあるテックバイヤーを対象に、進化するテクノロジー業界の最新情報を提供しています。

こうした信頼されたブランドと、弊社のグローバル規模のデータインテリジェンスプラットフォームを使い、市場の動向から購買意欲を特定、活性化することでお客様の成功をサポート致します。また、マーケティングサービスとしては、ビデオ、モバイル、ソーシャル、デジタルなど、様々なメディアでマーケティングに特化したコンテンツも作成しています。

詳細は[FoundryCo.com](https://www.foundryco.com)にてご確認下さい。